Interview
03



パパロ玲さんご家族

1990年生まれ、千葉県出身。後、秋田県に転居。2011年、宮城県仙台市にある専門学校を卒業してオーストラリアの大学に入学。卒業後シドニーの貿易会社に就職。銀行員のパパロ・マイケルさんと出会い2019年に結婚。2020年に長女、2022年に次女、2024年に長男、2026年1月に三女が誕生。2026年3月、オーストラリアから宮城県利府町に移住。









1 パパロさんご家族（玲さんとご主人・マイケルさん、長女・ソフィアちゃん（6歳）、次女・エマちゃん（4歳）、長男・マテオくん（2歳）、三女・オリビアちゃん（9ヵ月）　2 中央児童センター「ぺあくる」　3 中央児童センター「ぺあくる」・遊戯室「ぽっちぱーく」　4「モリリン加瀬沼公園・ラプラス公園inかせぬま」　5 JR利府駅前の広場でくつろぐパパロさんご家族

子育てしやすさも、暮らしやすさもNo.1。自然も豊かな、ずっと住み続けたいまち。

2026年3月、主人のマイケルと6歳（年長クラス）の長女、4歳（年少クラス）の次女、こども園に通う2歳の長男、そして生後3か月の三女と、家族5人で、オーストラリアから宮城県利府町に移住しました。

利府町は仙台に近く、自然が豊かで海もあり、買い物や外食なども便利。将来的には広い庭のある一軒家で暮らしたいと考えているので、10年先、20年先を見越しても利府町が一番住みやすいと思い、移住を決めました。主人のマイケルはシドニーで銀行員をしていたので、大都市と変わらない利便性を備えた利府町で暮らす際のコストパフォーマンスを他の地域と細かく比較。自然の豊かさ、子育てしやすさ、暮らしやすさなど、全てのバランスが最高だと言っています。2023年に母の実家がある秋田に一度お試し移住したのですが、冬はとても寒く、雨や雪が降った時に子どもを連れて行ける屋内の遊び場も少ない。その点利府町は「ぺあくる」※1の遊戯室ほか室内の遊び場が多く、公園も街中にたくさんあって、外でも屋内でも子ども達がのびのびと遊べることが決め手になりました。

移住に際しては、利府町のオンライン移住相談を活用。画面で「ぺあくる」の室内遊び場や保育園の自然豊かな園庭などを確認でき、保育園探しから入園に向けた相談や手続き、住まい探しなど、丁寧にサポートいただきました。移住後はベビーベッドの無償貸出制度を利用し※2、大変助かりました。私は留学エージェントの仕事を在宅ワークで継続、主人は仙台に通って日本語の勉強中で、海外向けに日本の暮らしを紹介するYouTube※3の配信もしています。仙台にある日本語学校までは車で30分弱、東北新幹線のJR仙台駅や仙台空港へのアクセスもいいですね。オーストラリアは海が身近にあったので、子ども達がもう少し大きくなったら浜田の海でシュノーケルなども楽しみたいです。「宮城県総合運動公園（グランディ・21）」の公園や「モリリン加瀬沼公園・ラプラス公園inかせぬま」で遊ぶのも大好きです。これからの利府町での暮らしを、家族みんなで楽しみにしています。

※1：正式名称：中央児童センター「ぺあくる」。子どもたちが自由に遊んだり、学習したり、気軽に楽しめる施設。屋内に遊戯室「ぽっちぱーく」、屋外には軽運動場や児童広場があり、児童センターほか子育て広場「十符っ子」、児童クラブ（利府小児童クラブ）を開設。

※2：利府町独自の子育て支援事業のひとつで、ベビーベッドほか、ベビーバス、ベビーシートを無償で貸し出す制度。他に子育て世代を支援する「子ども医療費助成事業」、「小学校・中学校学校給食費無料化事業」などさまざまな支援事業を展開。

※3：ご主人のパパロ・マイケル様が配信する海外向けYouTube「Gap Year Dad Japan」

利府町中央児童センター「ぺあくる」▶

利府町ベビーファースト宣言事業▶

パパロ・マイケル様YouTube「Gap Year Dad Japan」▶